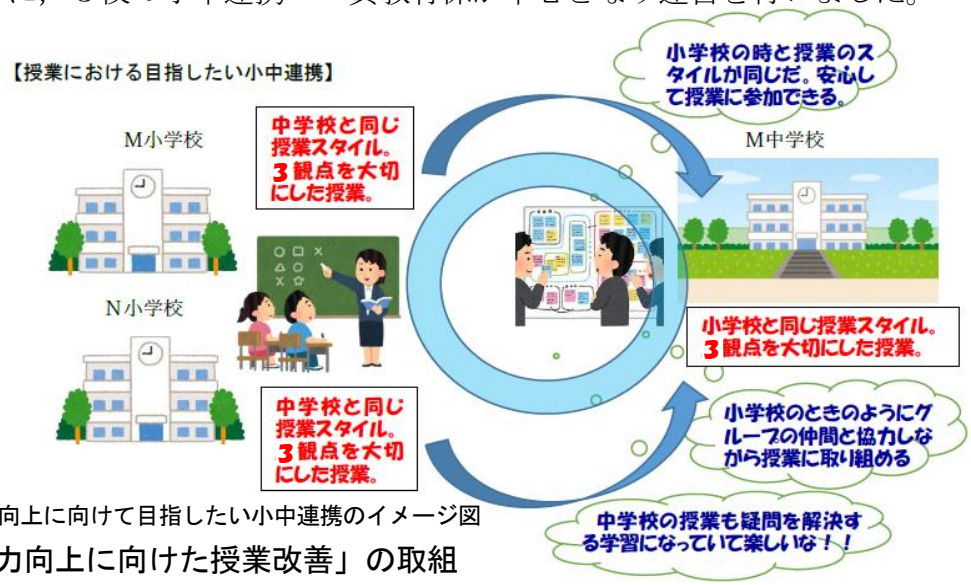
１（７）学校間連携

☞こんな実践

　M中学校区の小中学校３校では，「スチューデント・ファースト」の理念に沿った授業を目指すという共通理解を図り，授業改善に取り組んでいます。中学校での学校間連携を通じて，授業力向上を図っている実践です。

実践学校　M中学校区の３校
　　M中学校　M小学校　N小学校
実践時期　通年

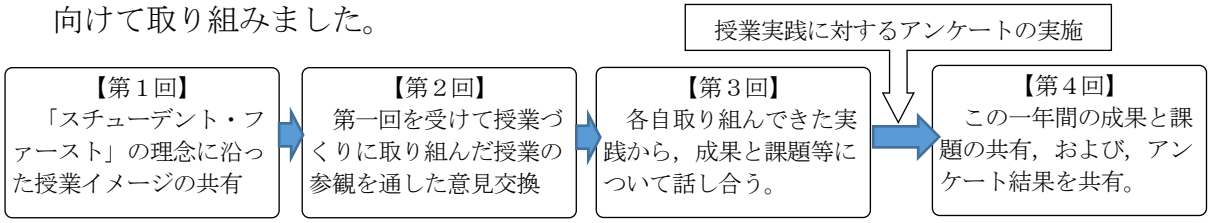
○　同じ中学校区の小中学校で連携して授業力の向上を図るために，「スチューデント・ファースト」の理念を大切にした日常の授業改善に取り組みました。小中学校とも共通の授業スタイルとして，「ねらい」「めりはり」「見とどけ」の３観点を位置付けた授業を目指す，中学校に入学した際に，子供たちが安心して授業が受けられる体制を整えるために，３校の小中連携・一貫教育係が中心となり運営を行いました。



授業力向上に向けて目指したい小中連携のイメージ図

○　**「授業力向上に向けた授業改善」の取組**

　年４回，中学校区の三校の教職員が一堂に会し，「授業力向上に向けた授業改善」に関する研修を行ったり，授業実践を見合ったりすることで，「スチューデント・ファースト」の理念に沿った授業の実現に向けて，共通理解を図り，日々の授業改善に向けて取り組みました。



４回にわたる小中合同研修会の流れ

① 第一回合同研修会（５月）

「スチューデント・ファースト」の理念に沿った授業を目指し，県教委作成の模擬授業ＤＶＤを全員で視聴しました。最初，「え，この授業何かヘン」という授業を見た後，素敵な授業を見て比べ，何がちがうのか小中学校の教職員の混合グループで話し合いました。教師主導で「ねらい」「めりはり」「見とどけ」を行っても生徒中心の授業にならないことや，子供の意識に沿った展開が大切であることを映像で理解することができました。このように，目指そうとする授業の具体的なイメージを共有することができました。

県教委作成の模擬授業ＤＶＤを視聴する

ＤＶＤを視聴しながら，グループで目指す授業イメージについて共有する

【３校職員で確認したこと】

○「スチューデント・ファースト」の理念に沿った授業を目指す!!

ね ら い…児童・生徒の言葉で学習問題や学習課題を位置付けること

めりはり…子供自身が主体となって学習に取り組める工夫をすること

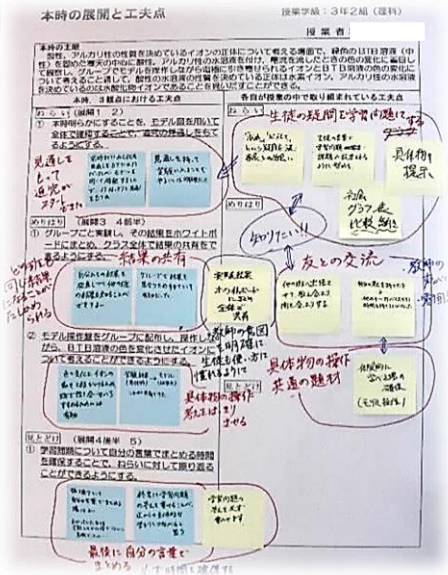
見とどけ…学習問題に対する答えを自分の言葉で振り返ること

② 第２回合同研修会（６月）

M中学校の全学級の授業を公開し，二つの小学校の先生方が参観しました。その後の分散会では，「ねらい」「めりはり」「見とどけ」の３観点を大切にした授業者の工夫点について，生徒の姿を基にその有効性を付箋に記述し，指導案拡大シートに紹介しながら貼り出していきました。また，小中学校の先生方の日々の実践における工夫点も付箋に記述し貼り出しました。そして，貼り出した付箋を分類し整理することで，これからの授業づくりにおける工夫点が具体的に見えるものになりました。

第１回合同研修会で共有された授業イメージを基につくられた授業を公開

指導案拡大シートに付箋を貼りながらグループで話し合っている様子



話し合った後の指導案拡大シート

「スチューデント・ファースト」の理念に沿った授業において，児童・生徒の言葉で学習問題や学習課題を位置付けること，学習問題に対する答えを自分の言葉で振り返るといった授業スタイルの大切さを知り，全教職員が日々実践することを確認しました。

また，指導案拡大シートにまとめられた「子供たちが主体的に学ぶための工夫点」について，小中連携・一貫教育係がまとめ，「M中学校区の子供たちの“わかる・できる”授業を求めて～中学校へ入学した後も，安心して学び続けるために～」というアイデア集を作成し，三校の教職員に配布しました。

小中学校の教職員へ配布されたアイデア集

ここがポイント！

「スチューデント・ファースト」の理念に沿った授業における工夫点を紹介したアイデア集を作成する上で，大切にしたことは何ですか？

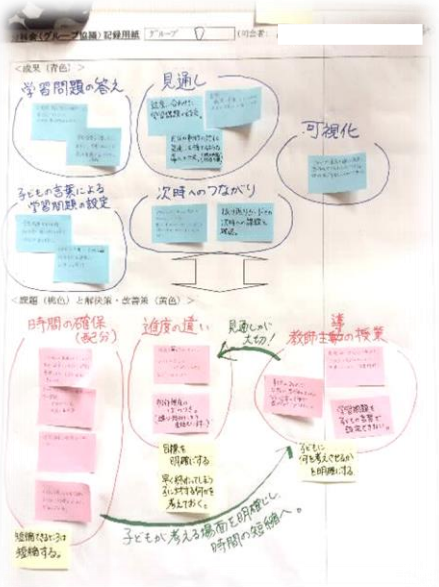
✓ M中学校の先生方が公開した授業や，三校の先生方が日々の授業実践の中で取り組まれていることをまとめることで，全教職員のアイデアがつまったものにしようと努めました。

③ 第３回合同研修会（８月）

２学期を迎えるところで，１学期の日々の実践から感じている課題について意見を出し合うことを通して，２学期以降の取組の方向性について考える機会を設けました。

小中学校の教職員混合のグループで，日頃の実践から，見えてきた成果を青色の付箋，課題（気になる現状，改善したいこと，悩み，課題，困難点）を桃色の付箋に記入し，類似性のある付箋はまとめてグルーピングをし，これまでの成果と課題を明確にしていきました。

１学期の取組についてグループで話し合う様子



グループで話し合ってまとめた模造紙

④ ２学期における授業実践に対するアンケートの実施（11 月）

どのような意識で，またどのように工夫して授業実践に取り組んでいるのか，M中学校区の先生方に対して授業実践のアンケートを実施しました。

そのアンケートから，「子供の言葉で，学習問題・学習課題を位置付けようと意識して取り組む」ことに加え，「授業中の子供の『つまずき』や『わからない』を予見し，子供たちにどう乗り越えさせるかを具体的に構想して授業づくりを行うことを実践することが，子供の主体性の高まりにつながっていると実感している先生方が多いことが明らかになりました。また，授業において，学習形態だけでなく，視覚教材や具体物，自己評価の活用，既習事項の確認やヒントカードの活用などを教師が準備することが，乗り越える手立てとなり，子供の主体性が高まっていると実感している先生方が多いことも明らかになりました。

⑤ 第４回合同研修会（12 月）

今年度，一年間の授業力向上についての取組について振り返るとともに，11 月に実施した授業実践に対するアンケート結果を報告し，来年度の授業改善における重点を確認しました。

○ 中学校に入学してきた新入生の中学校の授業に対する感想から

M中学校区では，三校すべての学校で，「スチューデント・ファースト」の理念に沿った授業が展開されてきています。そのため，そのような授業を受けてきた小学生が中学校に入学し，中学校の授業を受けた際に次のような感想をもちました。

○中学校に入学し、「学習問題」→「学習課題」→「まとめ」という学習の流れが小学校と似ています。そして、グループで話し合ったり、活動したりする場面も同じで、中学校に入学してもスムーズに学ぶことができています。

ここがポイント！

学校間連携による授業力向上の取組において，大切にしていきたいことは何ですか？

✓ 中学校区の教職員が目指す授業について，共通理解を図っていく必要があります。そのため授業イメージを共通できる場を設けていきましょう。

☞まとめ

・学校間連携として，中学校区の全ての学校で目指すべき授業について共通理解を図り，授業力向上に取り組むことで，子供たちは，中学校へ入学した後も小学校と同じ授業スタイルで学ぶことができ，安心して学び続けることができます。